

学校法人 本郷学園

理事長 松平 頼武
まつだいら よりたけ



図書館通信

「公共図書館のあり方は」と高く言いつもりはない。公共図書館は、広く、新しい情報を利用者に提供することが使命である。利用者の幅広く多岐にわたるニーズに応えるには、新刊図書類の収集が欠かせない。新刊図書類はほん大だから、そこからどんな図書資料を選ぶかに苦労する（とだまう）。ニーズが多い、というのを重視すると流行に流されるのが強調されてしまう。それも公共図書館としての一つの側面だ、といえるが、流行が去ってしまうとほとんど利用されないままになってしまっているのではない

「地域文化継承の核に」

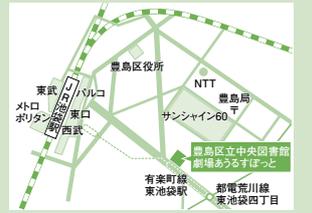
「公共図書館のあり方は」と高く言いつもりはない。公共図書館は、広く、新しい情報を利用者に提供することが使命である。利用者の幅広く多岐にわたるニーズに応えるには、新刊図書類の収集が欠かせない。新刊図書類はほん大だから、そこからどんな図書資料を選ぶかに苦労する（とだまう）。ニーズが多い、というのを重視すると流行に流されるのが強調されてしまう。それも公共図書館としての一つの側面だ、といえるが、流行が去ってしまうとほとんど利用されないままになってしまっているのではない



トピックス

- 巻頭言 本郷学園理事長 松平頼武 …… 1ページ
- 図書館と私 中央図書館 奉仕員(司書) 市川雅子 …… 2ページ
- 生涯の一冊 豊島区図書館経営協議会委員 井波良子 …… 2ページ
- 果鴨の「四季」 宇笠正純 …… 3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー …… 4ページ

発行 ● 豊島区立中央図書館
 東京都豊島区東池袋四一五一二
 ライオンリーナビル四階・五階 〒170-8442
 電話 ● 03-3983-7861
 FAX ● 03-3983-9904
 ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
 発行日 ● 平成26年1月



新航路[29]

新年明けましておめでとうございます。

担っているからであろう。土地、土地には、かけがえのない文化が受け継がれているが、その面の資料収集は公共図書館の果たすべき大きな責任と思う。それらは、店頭に並び図書類にならないものが多い。手づくりの研究、記録もある。そうした一つ一つの資料が貴重なのだ。

香川県高松は私の父祖の地である。いま、東京に住んでいるが、高松に帰ることも数多い。古くからの方言、地域の伝承芸能など土地の歴史・文化に触れるたびに、私の心に土地への愛着が燃える。

公共図書館は、地域（地方）文化継承の核として資料を収集し、後代に伝え残していくってほしい。この資料の利用ニーズは永久に続くものである。

本年どうぞよろしく
 お願いいたします。

さて、今回は閉館時に流れるBGMについてのお話です。中央図書館では、閉館の15分前になると音楽が流れてきます。もちろん駒込や巣鴨など、地域の図書館でも流れますが、今回は中央図書館に流れている曲をご紹介します。

まず初めに流れてくるのは、皆さんよくご存知の2009年にヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで日本人初の優勝を飾った辻井伸行さんの曲「川のささやき」です。これは辻井さんがお父さんと神田川のほとりを散歩しているときにひらめいた曲だそうです。2曲目は、これも有名な「からたちの花」。豊島区南大塚にある巣鴨教会に発祥の地とし

ての歌碑があります。3曲目は区制施行70周年を記念してつくられた区民の歌「としま未来へ」です。さだまささんが補作詞、作曲された歌です。最後に流れるのは、50代以上の方にはお馴染みの鉄腕アトムのテーマ音楽です。これは作者である手塚治虫さんが豊島区にあつたトキワ荘で活動されていたことから選曲しました。マーチなのでとてもリズムよく、明日への弾みになりますね。

平日は22時の閉館なので聴く機会がなかなかないと思いますが、土曜日や日曜日にちよつと気にかけてみてください。今年も、豊島区立図書館をよろしく願います。皆様のご来館をお待ちしています。

Current & Encounter

緒方竹虎の印象

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

緒方竹虎という巨大なメディア人と一度だけお目にかかったことがある、といっても私が入社したのが丁度中央公論社の七十周年記念の年だ。会場の歌舞伎座にいた講師を控室に案内した話である。

ただ、緒方さんは堂々たる恰幅の紳士であり、祝辞の内容も極めて濃いものであった。

それは朝日というメディアの主幹として『中央公論』の中身を熟知していなければならぬ。

緒方さんは朝日の論説主幹の任と情報局総裁として過ごした戦後鳩山の自由党の政治家となった。

第五次吉田自由党が造船疑獄で指揮権発動という評判の悪い行動を取った直後、緒方さんらは内閣総辞職を推進したのであった。

政権は緒方さんの目前にあった。

間もなく緒方さんは心臓麻痺で急死したのである。身近に姿を見た私にとってもショックだった。

当時「朝日」に、人物天気図というコラムがあった。ラムニストは葉々というペンネームだった。ラムニストは「週刊新潮」等の文章をいまだに覚えてる。

—— 保守反動という表現は止めてくれよな、これでもロンドンで、ハロルド・ラスキの講義を聞いているんだから。

緒方さんは一橋大学を学生運動で退学し早稲田大学に転学しロンドン大学に留学したのである。

—— 女性についてはどうですか？

—— ひとの細君は魅力的に見えるものだね。これは書くよな

—— と言われて、葉々はそれを書いてしまった。

緒方さんも、葉々も名人芸といつべきであろう。緒方さんが死ななければ自民党も変わっていたかもしれない。

1998年、東京生まれ。早稲田大学第一理工学部卒業。(株)芝勤務を経て本郷学園理事長に就任。ホイイスカウト日本連盟理事。香川県教育会会長。高松松平家第14代当主。

生涯の一冊 (30)



書名:『ベートーヴェンの生涯』(岩波クラシックス33)
著者:ロマン・ロラン
訳者:片山敏彦
発行所:岩波書店
発行年月:1983年5月



豊島区図書館経営協議会 委員 井波 良子

元東京都職員。豊島区図書館経営協議会で委員を務めている。

私の青春時代は、テレビも、いまはよりの電子機器などもなく、娯楽、楽しみという映画館に行くことくらいであった。そのためか、勉強しながら聴いていたLPレコードがとも身近な楽しみであった。ベートーヴェン、モーツァルト、シューベルトなどを聴くのが、私の青春時代の一つであったように思う。このことが今に至るまで私の生活に楽しみと慰めをもたらしてくれていると思う。
中でも、断然ベートーヴェンであった。
ベートーヴェンはどのような人だったのか。ロマン・ロランの著作で、『ベートーヴェンの生涯』というのがあった。

『ベートーヴェンの生涯』

いつも酒に酔っぱらっているテノール歌手の父親と召使い階級の家に生まれた母親、という貧しい家庭で育った。17歳から二人の弟の面倒も見た。26歳で音楽家として最も過酷な耳の病気が悪化し、さらに腸の病気に悩まされた。ベートーヴェンは、「僕はなんと悲しく生きなければならぬことか」と言い、この耳の病気に生涯苦しんだ。一方、ベートーヴェンは絶えまなく恋愛の熱情に掴まれ、打ちのめされそうになりながら、自ら命を絶とうとする危険すらあった。また、甥の後見役を担い、たくさん愛情を傾けたにもかかわらず、報われることなく甥の行動に生涯悩まされ続けた。

ロランは、「絶えず憂鬱に心をかまっていた不幸な人間」と、ベートーヴェンを表現し、ベートーヴェンの友人は、「その優しい眼を見つめていると泣けてくる」と記している。
このような状況の中で、よくもあれほどの数多くの素晴らしい曲を、私たちに遺してくれたものだ。
ベートーヴェンは「お前はもう自分のための人間であることは許されていない。ただ他人のためののみ」と言い、「悩みをつぎ抜けて歓喜に至れ」と人々を鼓舞し、不幸な人に奉仕するのが自分の運命とみなした。
ロランは、ベートーヴェンのストイックな生活と心情を彼の沢山の作品と結びつけながら、情熱を傾けて語っている。さまざまの資料、音楽作品を駆使しながら、後世にベートーヴェンの生涯を語り記したロランの功績は偉大であると思う。

図書館と私 18

中央図書館 図書館奉仕員 (司書・JPIC 読書アドバイザー) 市川 雅子

「1冊の本を手渡す喜び」

私は、児童担当の司書として様々な児童サービスに長く関わっていますが、時として思いがけない嬉しいことに出会います。
拾った木の实や鳥の羽根を持って図書館に駆け込んできた一人の子ども。一緒に重たい図鑑をあこれ見ながら、何の木の実なのか、どの鳥の羽根なのか、調べるお手伝いをして見守って、とうとう子ども自身が見つけて「あった！これだ！」と顔を輝かせる瞬間。
何年前かに小学校で行ったブックトークで紹介した1冊の本を覚えていた中学生との再会。この子は私のことはすっかり忘れていましたが「あの本の人？クラス皆で読んでましたよ。面白かった！」と本のことはしっかり覚えていてくれました。ありがとう。
お話会で絵本を読み聞かせていると、本の世界に入ってハラハラしたり、嬉しそうに顔をして、どんどん前に出てきて、いつの間にか私の膝にアゴを乗せてじっと絵本

に見入っている子。本のちからって素晴らしいです。
夏の暑い日、汗を拭きながら来館した仕事帰りの大人の男性。「小さい頃読んだ、フルカラーの大きな絵本が、ずーっと気になっていた。図書館のそばを通りかかったから思い切って寄ってみた。タイトルも忘れてしまっ…」
はいはい、お任せ下さい。断片的に覚えていた内容から考えて、1冊の絵本を差し出すと、「あっ、この本です。こんなに小さい本だっけ。あ、カラーじゃない。でも、この本で間違いはないです。いやー、嬉しい」と素敵な笑顔。私の方が嬉しいです。
小学1年生のクラスでの出張お話会で、最後に読んだ絵本の終盤に差し掛かると、みるみる目に涙をためて聞いていた若い先生。
こうして、日々、人と出会い、本を手渡すことは何にも代えがたい図書館員の喜びです。



～おたよりコーナー～

みなさんが読んだ本や図書館にまつわるエピソードを募集しています。今回は練馬区在住の佐野紀元さんに本をご紹介します。

はじめて「おたより」を差し上げます。
私は住居地や勤務先が変わった時、必ず図書館を訪ねるようにしています。
毎日の生活でいろんな方にお会いしたり、お話を伺ったりしながら楽しく過ごすように心がけています。
最近、自分なりに「エンディングノート」作成に取り掛りました。
自分の歩んできた人生を振り返り、家族や友人に感謝の気持ち、もしもの時の意思をどう伝えるのかと考えたりしています。
『秋録 東京裁判』(清瀬一郎 中公文庫1986年7月10日)を読んだ時、先の戦争で敗戦国となったため連合国の戦争裁判で「絞首刑、銃殺」を宣告され尊い命をなくされた英霊たちのことを知りました。
無念の死を宣告された英霊の「エンディングノート」はどのように書かれ、家族や友人に伝えられたのか知りたくなりました。
そして『世紀の遺書』が巣鴨遺書編集会から昭和28年12月に出版されたことを知り早速もよりの駒込図書館にお願ひし取り寄せて頂きました。
約750ページの本の厚さ以上に、700名以上の方の遺書の内容の重さは私の心の中にどんどん重く入ってきました。

「強制された死を目の前にして生の喜びを知り一刻一刻を最善に生きんとする姿」「家族や友人に自分の生き方に誇りをもってること。世界平和の願い」など私が普段TVや新聞、雑誌で読むものとは異なる英霊の最後の言葉を発見し感動しました。

ドナルド・キーン氏は「どの文章にも不思議なほどの優しさ。裁判を肯定した遺書はない。自分の行為を反省して罪があったと認める筆者もない」と書かれています。

私は家族に読んで欲しい本として「エンディングノート」に付け加えました。

(以上)



『秘録東京裁判』(改版)
著者:清瀬一郎
発行所:中央公論新社
発行年月:2002年7月
中央図書館、巣鴨図書館で所蔵しています。



『世紀の遺書』(第3版)
編者:巣鴨遺書編集会
発行所:巣鴨遺書編集会刊行事務所
発行年月:1954年7月
中央図書館で所蔵しています。

- ◆募集内容 ※400字以内
- 紹介したい本とその理由 (書名、著者名、出版社、出版年等もお書きください)
- 図書館にまつわるエピソード
- 本誌に対する感想、ご意見
- ◆応募方法
- 封書またはメールにてご応募ください。メールの場合は、タイトルに「図書館通信おたより係」とご記入ください。
- 氏名、年齢、住所、電話番号を明記してください。
- 匿名希望の方はペンネームをお書き添えください。

- スペースの都合上、趣旨を変えない範囲で原稿を加筆・修正させていただくことがあります。
- 掲載させていただいた方には粗品を進呈します。
- お送りいただいた原稿は返却できませんのでご了承ください。
- 採否に関するお問い合わせには応じられません。

【あて先】 〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル5階 豊島区立中央図書館 図書館通信おたより係 E-Mail: A0027900@city.toshima.lg.jp

鶯の「四季」

第4回(最終回) たかが石菖 されど石菖

石菖の培養、育種に腐心した
染井の植木屋・丹羽茂右衛門

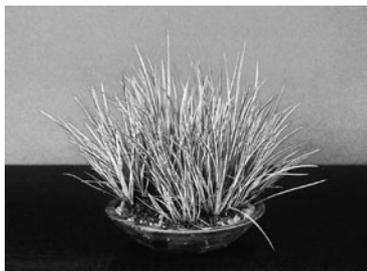
宇笠 正純

<著者プロフィール>

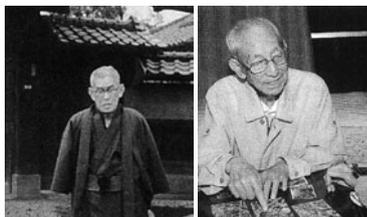
著者は、昭和52年から30年余り(社)日本盆栽協会発行の月刊誌「盆栽春秋」を編集。取材、執筆も行ってきた。現在も同誌に執筆中。



石菖初出の文献は「法然上人絵伝」。巻46の盆栽の手前が石菖



江戸時代の代表的品種、斑入りの「正宗」。現在でも人気品種で、華やかな気品がある

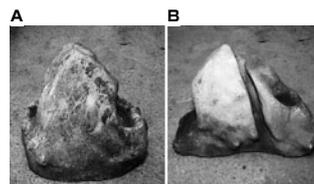


自邸の門前で7代目丹羽茂右衛門さん。丹羽家はこの代で江戸から続いた植木屋を止めた

丹羽家お出入りの庭師、駒込の吉田正吾さん。丹羽家の石は現在吉田さんの所で保存している

◆初春は梅花から
年も改まって平成26年、新春を飾るのはなんと
いっても梅。「野梅三輪」の言葉もあるが、
なかでも「甲州野梅」が一番。その5弁の整った
形、凛とした姿が好まれ、盆栽や活花の世界
ではよく用いられる。
さて、梅については知る人も多いので、今回
は冬にも用いられる「石菖」(せきせう・せき
せう)について知る人も多いので、今回

◆初出は「法然上人絵伝」
石菖は多年生常緑の草本でサトイモ科の植物。
学名はAcorus gramineus Soland. ショウ
ブ属で、同様に根や葉に香氣がある。1年を通
して緑の葉を保つ石菖は「観賞用」として江戸
中期から流行し栽培や育種が盛んに行われた。
その歴史を文献からみると、初出は「法然上人
絵伝」(徳治9年・一三〇七)というから古い。
その巻46の盆栽の前に描かれているのが衆自
「石菖」とされている。下って寛正4年(四六三
頃)の足利義政の愛好ぶりが「陸涼軒日記」に
詳述されている。
江戸に入ると伊藤伊兵衛正武が宝永7年
(一七一〇)に刊行した『増補地錦抄』で「石
菖の頂」を設けており、文政7年(一八二四)



不思議な穴のある石
石菖の付け石として丹羽家に残されている石。
Aは高さ33cm、間口26cm、山型で左右に穴があ
る。Bは高さ26cm、間口32cmの滝石。右側に1つ
穴がある



勝亦講師は、この石の穴
を利用して石菖を付ける。
中央の小穴は石菖を固定
するものか? 穴は円型で直径5cm、
深さ5cmほど。その中央
には直径1.5cmほどの
小穴があり底がある



Aの石に石菖を付けた状態。左右の穴に付けると山
型の石に調和して床の間に飾れる姿に

種樹家の金太が
『草木奇聞家雅見』
で斑入りの「正宗」
など32種を紹介し
ている。このうち
10種余は現在も栽
培されている。
たかだか岸辺の
雑草ではあるが
「たかが石菖
されど石菖」
である。

◆冬の茶事「夜咄」に登場

石菖は夏のもの、納涼盆栽展では盆栽の添草
としてよく用いられる。が、冬にも春の息吹き
を感じさせる草として盆栽界では多用される。
盆栽とその添草としての関係は誰にでも容易
に想像できるが、この石菖が茶事「夜咄」で重
要な役割を担っていることは知らない人も多い。
それは、冬の夜長をみながら楽しむもので席
入りは夕方6時頃。明かりの灯る幽玄な雰囲気
の中で行われる。石菖の登場はその後席で床の
間に飾られる。土のものは不可とするので、水
盤に砂植えて水を張る「石菖盆」である。そ
の香氣、清涼感だけでなく、明かりに用いる灯
油の油煙を吸収する草として欠かせない。

◆不思議な穴のある石

最後に、染井の著名な植木屋丹羽家に遺され
た、石菖の付け石「不思議な穴のある石」を紹
介しよう。丹羽家は代々「茂右衛門」を襲名、
津藩藤堂家お出入りの家柄。造り菊、石菖、蘭
ツツジを得意としたと伝えられている。
この丹羽家に入入っていた駒込の庭師、吉
田正吾氏は「丹羽さんで鉢植は見ましたが、こ
の石に付けた石菖は見ることがありません」と
首を傾げた。なお、正吾氏は昨年91歳で世界。
では、この石に石菖をどのように付けたのだ
らうか? (社)日本盆栽協会の勝亦隆雄講師に試
みに付けてもらった。右の写真のよう「一石で
床の間にも飾れる雅味のある姿を見せてくれた。

受講生募集

地域研究ゼミナール 受講生募集

テーマ 「桜」

豊島区はソメイヨシノザクラ発祥の地です。
そこで、多くの皆さんに桜を知っていただくことを目的とし、下記の
日程でゼミナールを開催します。サクラに関する様々な事柄を学
び、知識を深めませんか。

(1) 日程

第1回 平成26年3月1日(土) 午後2時から4時
「ソメイヨシノザクラの里・豊島区」
講師 宇笠 正純 氏(元タウン誌「鶯鳴百選」編集長)
染井吉野桜に関するお話をさせていただきます(予定)。

第2回 平成26年3月8日(土) 午後2時から4時
「樹木医からみた桜」
講師 椎名 豊勝 氏(樹木医)
樹木のお医者さんである樹木医からみた桜のお話をさせていただきます。

第3回 平成26年3月15日(土) 午後2時から4時
「文学に書かれた桜」
講師 伊藤 榮洪 氏(豊島区図書館専門研究員)
小説や随筆、文学などの中で、桜が出てくるものを紹介させていただきます。

(2) 会場

あうるすぽっと 会議室B
(豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)
※中央図書館と同じ建物内です

(3) 募集人数

60名(先着順)

(4) 参加費

1,000円

(5) 申し込み方法

平成26年1月6日(月)
午前10時より
電話、または中央図書館5階事務室
にて直接お申し込みください。
(定員になり次第締め切ります)

昨年度の様子



図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てください。

各図書館の 連絡先	中央図書館	3983-7861	池袋図書館	3985-7981
	駒込図書館	3940-5751	目白図書館	3950-7121
	巣鴨図書館	3910-3608	千早図書館	3955-8361
	上池袋図書館	3940-1779	雑司が谷図書貸出コーナー	3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	1月	2月	3月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★12日・かるた会 午後2時 ★26日・ボランティアによるおはなし会 午後2時(池袋親子読書会)	★2日・おはなしこうさく会 午後2時 ★23日・ボランティアによるおはなし会 午後2時(としまみち草の会)	★29日・春の科学教室 午前10時※
駒込図書館 (駒込地域文化 創造館)	土曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時 (1月はお休み)			★14日・こどもえいがかい 午後2時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★8日・ほんのじかん かるた大会 午後3時 ★29日・またこんど! おはなしびよびよスペシャル 午前11時 またこんど!ほんのじかんスペシャル 午後3時		
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は 地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★8日・さくらんぼ かるた大会 午後3時※ ★29日・さくらんぼ えいがかい 午後3時※ 「ちびまる子ちゃん まるちゃん文通をはじめるの巻」(14分) 「ミッキーマウスのバレンタインデー」(8分)		★26日・さくらんぼ えいがかい 午後3時※ 「ちびまる子ちゃん まる子たち1年生の世話をやく」(24分) 「ミッキーマウスのおたんじょう日パーティー」(9分)
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分	第1水曜日 午前11時 あかちゃんたんぽぽ (1月は8日に開催)	★11日・たんぽぽカルタかい 午後2時30分 ★25日・たんぽぽえいがかい 午後2時30分 「わらぐつの中の神様」(23分)	★22日・たんぽぽえいがかい 午後2時30分 「鬼から」(27分)	★22日・たんぽぽえいがかい 午後2時30分 「おやゆびひめ」(20分) ★29日・たんぽぽこうさくかい 午後2時30分
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時 (1月は8日に開催)	★29日・しんしゅんかるたかい 午後3時	★26日・かきくけこうさくかい 午後3時	★26日・めじろシアター 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★2月1日～・本のおたのしみ袋 図書館員が選んだ本を、3冊1セットにして貸し出します。中身はお楽しみにね。(40個。なくなり次第終了)		

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

図書館からのお知らせ

受講生募集

豊島区子どもの読書に関する講習会 受講生募集

子どもたちにお話を!

～心を育む声とことばとまなざしと～

声とことばで語られるお話を、子どもたちに向け話していく大切さや方法を実践を交えながら、楽しくお話していただきます。

(1) **日時** 平成26年2月25日(火)
午前10時30分～12時30分
※開場午前10時15分

(2) **会場** あつるすばっと 会議室B
(豊島区東池袋4-5-2
ライズアリーナビル3階)
※中央図書館と同じ建物内です。

(3) **講師** 尾松 純子(おまつ じゅんこ)氏
・小学校教師を経て語り手となる
・現在、立教小学校の非常勤講師(読書)
「おはなし夢夢(むむ)」主宰
NPO法人「語り手たちの会」理事
・著書「おはなし夢夢の手袋人形」
エッセー「物語に心澄ませて」
・幼い子から大人まで様々な場へ、生の声での語りを届けている
・語り手養成や保育・児童文化の研修会、各地の社会教育講座の講師で活躍

(4) **対象** 豊島区内の教育・福祉施設などで子どもたちに読み聞かせボランティアをしている方

(5) **募集人数** 70名

(6) **参加費** 無料

(7) **申し込み方法**
往復はがき(①講座名 ②千住所 ③氏名(ふりがな) ④電話番号 ⑤活動先名を記入)で、平成26年1月31日(必着)までに、
〒170-8442 東池袋4-5-2
ライズアリーナビル5階
豊島区立中央図書館 児童・YAグループ
へ申込み。
※返信に千住所、氏名を記入。先着順。

【問い合わせ先】 豊島区立中央図書館 児童・YAグループ 電話 03-3983-7861(代)

○千早図書館友の会主催○
「千早進歩自由夢月例会」

※1月例会は申込不要ですが、2月例会は往復はがきによる事前申込制です。定員は各月とも50名です。

◆千早進歩自由夢(1月例会)
講演会「アトリエ村の女性たち-豊島区女性史「風の交叉点」より-」
日時 1月18日(土) 14時から16時(開場:13時30分)
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
講師 グループ「風の交叉点」
講演内容 豊島区女性史「風の交叉点」(既刊・全4巻)では、昭和初期に長崎地域に形成された「アトリエ村」の暮らしも、女性の側から取り上げています。芸術を媒体として、限りなく自己表現しようとし続けた貧しい男性を支えた女性たち、自らが制作を通して生きていく主体として自覚していった女性たち、自分の絵を夫との葛藤のなかであきらめた女性たちからの聞き書きを紹介します。
定員 50名(先着順)

◆千早進歩自由夢(2月例会)
三遊亭寧輝「落語会」
日時 2月22日(土) 10時から12時(開場:9時30分)
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
出演 三遊亭寧輝
講演内容 毎年恒例の「落語会」、3年連続で豊島区千早出身である三遊亭寧輝師匠が落語の世界へといざないます。
演題等は当日のお楽しみです。
出演者略歴 1970年 豊島区千早生まれ
1995年 六代目三遊亭團圓に入門
1999年 ニッポン昇進
2010年 真打昇進
定員 50名(事前申込制。応募者多数の場合は抽選となります)
申込方法 往復はがきで、下の囲み欄を参照して必要事項を記入してください。
締切は2月12日(水)(必着)。
参加の可否については、2月15日(土)頃に返信はがきにてお知らせいたします。

○往復はがきの記入方法○
往復はがきの往復裏面に「三遊亭寧輝落語会」と大きく記入の上、
「住所・氏名・電話番号」を記入して、下記送付先までお送りください。
〒171-0044 豊島区千早2-44-2 豊島区立千早図書館

編集後記

あけましておめでとうございます。ここ数年、時が過ぎるのを以前よりずっと早く感じるようになりました。まさに光陰矢の如し。今年も四季の移ろいを楽しみながら一年を過ごしたいと思います。

中央図書館	駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
・開館時間・ 平日 午前10時～午後10時 土日祝 午前10時～午後6時	・開館時間・ 平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後5時	・開館時間・ 平日 午前10時～午後7時 土日祝 午前10時～午後5時
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
1月	2月	3月

巣鴨図書館 休館のお知らせ

巣鴨図書館は、施設の老朽化に伴う大規模改修工事のため、下記の通り休館します。ご利用の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

休館期間 平成26年2月3日(月)～平成27年3月(予定)
※上記期間、巣鴨図書館所蔵資料は貸出できません。

なお、次の期間は臨時窓口を開設し、以下の業務を行います。

開設日: 平成26年2月4日(火)～平成26年2月16日(日)
開設時間: 平日(火～金) 9時～19時
土・日・祝日 9時～17時
※月曜日はお休みです。

【臨時窓口で行う業務】

①図書資料等の返却受付
②予約資料の貸出
※新規の予約受付はいたしません。

【問い合わせ先】 中央図書館 または 巣鴨図書館 まで

図書館カレンダー